



諏訪湖通信78号

令和6年12月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



「釣り仕掛けによるカワウ捕獲」を試行しました (諏訪地域振興局 諏訪農業農村支援センター、林務課)

魚食性鳥類の「カワウ」は、諏訪湖及び周辺河川に飛来し魚類の捕食被害を及ぼしています。カワウの魚食量は 500g/日と言われており、諏訪湖のワカサギ資源量を減らす要因となっています。

そこで、諏訪地域野生鳥獣被害対策チーム(諏訪地域振興局林務課、諏訪農業農村支援センター)で「釣り仕掛けによるカワウ捕獲」を試行し、捕獲方法の有効性や捕獲効率を検証しました。「釣り仕掛けによるカワウ捕獲」とは、カワウのエサとなるウグイを仕掛け、それを食べにくるカワウを捕獲するという方法です。

仕掛け設置場所は、事前調査でカワウの飛来状況を確認したうえ、諏訪市豊田先の浮漁礁周辺の湖面とし、10月29日(火)から11月13日(水)の午前6時半から午前10時まで、気象条件の良い平日に計8日間実施しました。

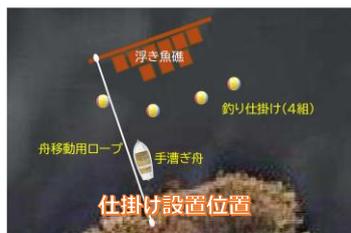
結果は、残念ながら捕獲には至りませんでした。理由は様々考えられますが、最大の要因は想定を上回るカワウの警戒心の強さです。仕掛け設置以降、浮漁礁付近にカワウが着水しなくなりました。そこで、2点工夫をしました。

一点目は仕掛けの変更です。浮きを黄色のフイから透明のペットボトルに変更しました。

二点目としてカワウのデコイを作成しました。漁礁に設置したところ、近くを飛来するようになりましたが、ウグイを食べるまでには至りませんでした。

今回諏訪湖で捕獲を試行してみて、カワウ対策の難しさを改めて感じました。

諏訪湖は、観光客が多く環境的に対策が難しく、できる対策に限られますが、その中でいかに漁業被害を減らすかについて、今後も関係機関と連携して検討していきたいと思えます。



捕獲実施状況 (仕掛け設置)



作成したデコイ



デコイ設置状況

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901

～諏訪湖の日プロジェクト～株式会社テンホウ・フーズ 諏訪湖創生事業に対するご寄附をいただきました

令和6年11月18日(月)、株式会社テンホウ・フーズ様から諏訪湖浄化を願って県にご寄附をいただきました。この取組みは諏訪湖の日である10月1日における諏訪湖周7店舗(城南店、中華そば城南店、福島店、湖浜店、南宮店、長地店、丸山橋店)の売上金の一部をご寄付いただくもので、今年で2年連続の取組となります。贈呈式では、大石社長から「私達には自慢の諏訪湖がある。美しい諏訪湖であることがみんなの誇りになり、また多くの人が諏訪湖に目を向け、意識をもってこの諏訪湖を守っていくという行動につなげてほしい。諏訪湖の日の取組は継続することが大事。もっと大きなプロジェクトに発展することを期待している」と取組のご紹介と併せて激励いただきました。竹花諏訪地域振興局長は「諏訪湖浄化は、地域の願いであり、これまで地域の企業・団体、住民の皆様と行政が危機感を持って一緒に取り組んできた。本年8月に阿部知事が諏訪湖を遊泳したことも踏まえ、泳ぐことができるほど水質改善した諏訪湖をさらに盛り上げるためにいただいた寄附金を大切に活用していきたい」と感謝の気持ちを伝えました。

左：(株) テンホウ・フーズ

大石代表取締役社長

右：竹花諏訪地域振興局長



諏訪湖まるまるゴミ調査が行われました!

令和6年11月9日(土)に第5回諏訪湖まるまるゴミ調査が開催されました。これは諏訪湖創生ビジョン推進会議の「ごみの無い諏訪湖」WGで企画されたもので、ごみを拾うだけでなく、諏訪湖のごみの種類や数量を調査し、それを公表することで流域内の方の関心を高めごみの発生抑制に繋げるものです。今回は、226名の方にご参加いただき、諏訪湖一周の5か所で調査を行いました。全体の回収量は可燃ごみ 299kg・不燃ごみ 35kgで、プラスチック製品由来のものが全体の9割以上を占め、その内の7割以上が小さなビニール片やプラスチック片でした。

調査の後には、ごみ拾いで感じたこと等について調査グループごとに話し合う「ふりかえり」が行われました。そこでは、「ビニールのごみが多かった。」「下流へ流れると海洋プラスチック問題になる。」「このごみはどこからやってきたと思いますか?」という問いに対しては、「ポイ捨て。」「川から諏訪湖に流れ込んだ。」「ごみ置き場から風や雨で流されてきた。」などの意見がありました。

また、「自分達が住んでいる町の諏訪湖にこんなにごみが落ちていることを知ることができた。」「一般の人にもこの活動を知ってもらいたい」などの意見もあり、調査を通じてごみへの関心が深まったことを感じました。



(ゴミ調査の様子)